

# 高退協ニュース

No. 190  
2014年  
9月2日  
発行  
高退協  
高知事務  
局

〒780-0850

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内2丁目1番10  
高知ホール高知組交付  
連絡先 Tel. 088-822-6822  
郵便振替口座 〇二六五〇二二二八九三

高退協夏季学習会・・・36名参加

## エンディングノートの書き方 「いろいろな思いが・・・」 与 教育は、与 教育現場は 「病休者の増加の実態など」 田中 正

8月22日、大雨も一時止んだ3時から、恒例の夏季学習会が高知城ホールにて36名の参加でにぎやかに開催されました。



「エンディングノートの書き方」  
井垣さんと山根さん

第一講座は、今話題の「エンディングノートの書き方」でした。井垣さんと学校生協の山根さんが講義されました。エンディングノートには、①自分自身の「情報」と「気持ち」の整理になること、②残された家族の助けになること、③災害時に役立つことなどの意義があり、書くポイントには、書きやすいこと、書き、書きっぱなしにしないで内容の更新をする、ノートの存在を伝えておくことなどと説明されました。自分史や家族へのメッセージは、自分を見つめなおすことであり、また預貯金、財産管理、形見、遺影写真、献体、尊厳死、直



「今 教育は、今 教育現場は。」  
米満さん

葬や樹木葬、葬儀の形、などなどエピソードも交えて具体的な知識が提供されました。後、「歩んできた生き方を大切に」「葬儀が商売だと感じていた」「新しいことを知った」など、時間をオーバーするほどの「いろいろな思い」のこもった質問や感想が会場からたくさん出されました。

第二講座は、高教組書記長の米満さんから、「今 教育は、今 教育現場は。」というテーマで、日本の長い労働時間、多くの労働量(仕事内容)などフランスの教員との比較、心身の疲れ、溜まるストレスなど病休者の増加の実態、今日の教職員の労働環境の実態が話されました。また今の青年教職員の傾向、人事評価制度と査定昇給制度のリンクとそれに伴う事務量増のことで、臨時教員の希望者減、南高と西高、須崎高と須崎工高の再編、なども資料を基に説明されました。時間が足らず、講座が終わった後、参加した委員から、「もう少し聞きたい」「知らない

**高退協ホームページ**  
<http://koutaikyo.web.fc2.com>

行事予定や高退協ニュース(過去3年間分)、役員担当分担、交流サイト(伝言板)などを掲載しています。ぜひ活用ください。

大雨の印象が強い集会になりました。三日間しっかり勉強させてもらいました。一日目、オープニングは、「佐喜浜こども館」、記念講演は山下正寿さんの「フクシマに向き合う青年たち」核被災と教育」でした。二日目は分科会で、私は、「労働条件、

権利を守り、安心して働きたい」と参加しました。高知県は、臨時教員だけでなく、臨時事務職員の雇用の空白期間もまた全国的に見てかなり長いということが資料を見せてもらいよくわかりました。事務職員から見た教員の勤務実態の報告などを聞きながら、今年の確定交渉では何をどう要求していくのかがいいのか、考えていました。超過勤務の問題にしても、人を増やしてもらわなければ、なかなか有効な手立てがありません。三日目は、二つの講座がおこなわれました。こういう集会に参加すると、職種によつての専門性はもちろんです。子どもたちを真ん中にして考えれば、職種の違いはそれほど大きくはない、そう感じます。全教から、学校現業職員の法制化を求める署名がきていますが、全国的にも臨時職員化、民間委託、任用替えて、正規の現業職員は激減しています。様々な職員が、子どもたちを見守り、育て、お互いにサポートしあえてこそ、いい学校がつくれるのではないでしょう

### 高知県臨時教職員雇用 長い空白期間

高教組委員長 竹島 久美

八月二日から三日間、全国学校事務研究会が土佐御苑を会場に開かれました。大雨が続く、土讃線、高知道など次々不通になる中、京都から二十時間かけてきたという方もありました。帰りも、通じているのは西条へ抜ける道だけという状況で、皆さんご苦労されています。なんとか無事に帰り着いて下さいという思いでした。現地実行委員の方たちも大変で、自分の家が床下浸水になりながらも、お世話をしてくれた方もあったようです。



開かれました。高教組委員長竹島さんの心温まるあいさつの後、国松さん(新顧問)の乾杯の首領で宴が始まり、近況や思いをそれぞれに楽しく懇談し、交流を深めました。橋元さんの中締めも気持ち良いもので、この日一日、高退協の雰囲気を満喫しました。

懇親会